



母親・両親 学級用

子どもの事故はちょっとした気配りで防げます。
事故を防ぐためのポイントをまとめてみました。

1. 赤ちゃんの事故は大人の気配りで大部分は防げます。

赤ちゃんは寝返りができるようになるとベビーベッドや高い所からの転落。物がかめるようになるとタバコや小物の誤飲。ハイハイやつかまり立ちをするようになると転落や熱い物を触つてのやけど。外遊びや外出をするようになると交通事故が起こりやすくなります。



事故を経験した保護者の80%以上が少しの気配りで防げることができたと回答しています。子どもの発達や行動パターンを理解し的確に対応すればほとんどの事故は防止可能です。

2. ベビー用品やおもちゃを購入する時、デザイン性より安全性を重視しましょう。

赤ちゃんが使うものはすべて安全の規格や基準にあっていると限りません。Sマーク・SGマーク・STマークなど安全マークがついているものでも、使い方や使用月齢が違っていたり、赤ちゃんの体に合っていないと事故は起ります。使い方の表示や注意書きは大切に、説明書を良く読み、構造や品質に問題はないかを確認して使用しましょう。



ベビーベッド、子ども用の椅子、ベビーサークル、衣類などはデザインだけではなく、安全性や耐久性にも目を配りましょう。

3. 部屋の中は安全を考えて整理整頓しましょう。

タバコ・ボタン電池・クリップ・硬貨・指輪などの小物を床やテーブルに置いたままにすると、赤ちゃんは手に持って行きなんでも口の中に入れてようとするので危険です。赤ちゃんの口の大きさは最大32mmなので、これより小さなものは飲み込んでしまいます。



部屋の中の小物は整理整頓しておき、自宅だけではなく、実家やよその家に外出した時も注意しましょう。

4. 赤ちゃんの敷布団は硬めの物を準備しましょう。

敷布団は柔らかすぎると赤ちゃんの顔が埋まってしまう、鼻や口がふさがれてしまいます。また、ベッドの中や寝ている赤ちゃんの側にぬいぐるみやタオルなどが置いてあると寝返りをしたときに顔が埋まってしまう。



敷布団は硬めの物を使用し、赤ちゃんはあおむけに寝かせ、うつぶせ寝にならないように気をつけましょう。布団は顔に深くかけすぎないようにしましょう。

5. ベビーベッドの柵とマットレスの間にすき間がないようにしましょう。

ベビーベッドの柵と敷布団の間に、赤ちゃんの頭が入るようなすき間があると、顔がはさまって動けなくなり、窒息する危険があります。ベビーベッドはベッドの柵と敷布団の間にすき間がないようにして使用しましょう。



すき間ができてしまう場合には使用をやめるか、タオルなどをはさみすき間をなくして使用しましょう。

6. チャイルドシートを準備しましょう。

生まれたばかりの赤ちゃんでも、抱きかかえて自動車に乗せるのは危険です。抱いていても車が衝突したり、急に止まると、乳幼児は腕から飛び出し衝撃をともに受けてしまいます。たとえゆっくり走っていても衝撃のエネルギーは予想以上に大きく、大人の手の力では支えきれません。



車に乗せる時は年齢にあったチャイルドシートを後部座席に取り付け使用しましょう。購入時には耐久性や安全基準に合格したJISマークや運輸省の認定マークを目安に車種にあったものを選びましょう。

7. 赤ちゃんを家に一人置いて外出しない。

赤ちゃんが寝ている少しの間に、赤ちゃんだけを家に置いて買い物などに出かける人がみられます。出かける時は寝ていても途中で起きてしまったり、寝返りやハイハイができるようになれば、家の中を動き回るのでいろいろな危険が待ち受けています。



また、火災や地震など災害の際にも一人では脱出できません。赤ちゃんは自分自身で身の安全を守ることができないので、大人が常に心がける必要があります。赤ちゃんを家に一人残して外出はしない。

8. 車の中に短時間でも赤ちゃんを一人で乗せておかない。

夏に赤ちゃんを自動車の中に寝かしたままにしていると、脱水を起こし、時には死亡事故につながることがあります。車内は日中短時間でも温度が驚くほど上昇し、40~50度になります。車から降りる時は必ず赤ちゃんも一緒に降ろしましょう。



9. 子どもの応急手当の方法を知っておきましょう。

子どもが事故にあった時必要なのは冷静な判断と適切なすばやい応急手当です。的確な応急手当がなされたことで一命を取りとめたり、軽症ですんだりします。いざという時あわててパニックになってしまわないよう基礎的な知識と簡単な応急手当を覚えておきましょう。



10. かかりつけの病院や緊急時の連絡先がわかるようにしておきましょう。

事故が起こってしまった時あわてないためにも、かかりつけの医師や病院、緊急時の連絡先などはいつでもわかるようにメモをしておきます。また、母子健康手帳・保険証・診察券などはひとまとめにしていつでも持ち出せるようにしておきましょう。

